

# 鶴田町農業委員会委員研修参加報告



△コンクール発表の様子

## 全国農業コンクール全国大会

7月8日(木)、「第59回全国農業コンクール全国大会」(毎日新聞社・青森県主催)が青森市文化会館で開催されました。

このコンクールの目的は、農業経営面・生活面で高い収益と快適な生活を実現し、地域に大きく貢献している農業者が実績を発表し、これを広く紹介・普及して、わが国の農業の発展と農村地域の活性化に役立てるもので、鶴田町農業委員会では研修事業の一環として12名の委員が参加しました。

会場には1500人の聴衆が県内外から訪れ、コンクールでは、全国から集まった20人の代表が、日ごろ取り組まれている農業経営を発表しました。



△熱心に耳を傾ける委員たち

た。

### ■種芸

境谷博頭(59) 〔有〕豊心ファーム・五所川原市「采と小麦大豆で245haの規模拡大」  
川田慶(53) 〔有〕アグリ川田・秋田県大館市「県内最大規模の枝豆栽培」

### ■園芸

清野俊博(59) 〔有〕せいいの農園・弘前市「味のぶれがないリンゴ」  
柏崎進一(62) 〔有〕柏崎青果・上北郡おいらせ町「黒ニンニクなど加工品50種超」  
南原武博(44) 〔有〕南原農園・鹿児島県薩摩郡さつま町「ブリザードフラワーの技術開発」  
福山三義(60) 〔有〕宮崎県児湯郡新富町「省力化技術でピーマン生産

書類審査と現地審査、今回の発表を行った結果、グランプリ(毎

日農業大賞)には、境谷博頭(59) 〔有〕豊心ファーム・五所川原市が選ばれました。

境谷さんは生産調整の強化が続く水稲栽培においていち早く法人化を行い、同じ機械体系で小麦の栽培と乾燥・調製施設を整備し、また作業受託面積を拡大、大豆の栽培も行い、収穫作業面積は250haにまで拡大、近隣の集落転作組合を取り込んだ地域営農を展開しています。

また、全国からの発表を聞き、これからの地域農業は単一経営体としての農家ではなく地域社会に対する公共の便益提供や地域の農地、自然環境の保全、担い手の育成や高齢者の雇用等を考えた経営感覚が必要と感じました。

## 第30回北五地区農業委員会大会

7月23日(金)、「第30回北五地区農業委員会大会」(北五地区農業委員会協議会主催)が鶴田町農村環境改善センター「豊明館」で開催されました。

主催者として、北五地区農業委員会協議会会長の太田昭市五所川原市農業委員会会長があいさつのもと、歓迎のあいさつを中野町長が述べました。

また、農業委員として長年にわたり地域の農業振興に貢献した13人の方々に表彰状が贈られました。

開会行事終了後、相馬一二鶴田町農業委員会会長が議長に選出さ

▽大会会場(上)と出席した委員(下)



れ議事に入りました。  
北五地区4市町より次のとおり要望案が出されました。

・新規需要米等の安定生産・流通と対策と計画生産の強化に関する要望  
(五所川原市農業委員会)

・農業農村整備事業の計画的な推進に関する要望  
(中泊町農業委員会)

・おいしい果物産地振興事業の継続と内容の充実に関する要望  
(鶴田町農業委員会)

・りんご生産振興に係る国・県事業の継続に関する要望  
(板柳町農業委員会)

各議案について順次慎重に審議された結果、すべての議案が原案どおりに可決されました。

### ご存じですか？

#### 食用ホオズキ(品種マストロペリートマト)

町では、これから新たに町の特産品に成り得る作物の生産振興に力をいれ入れています。そして今注目しているのが「食用ホオズキ」です。

「えっホオズキって食べられるの?」とお思いの方も多いのでは。観賞用のイメージが強いホオズキですがフランスやイタリアでは普通の食材として栽培されています。

最近、雑誌やテレビ等で紹介されるようになり少しずつブームが広がっています。ぜひ一度、賞味あれ。



あるじゃの産直コーナーで販売しています。

## 学生募集

青森県営農大では、平成23年度入校生を次のとおり募集します。

●修業年限および募集人員  
2か年(全寮制)

●畑作園芸課程・果樹課程・畜産課程あわせて定員70名

●受験資格

高等学校卒業(平成23年3月卒業見込みの方含む)またはこれと同等の学力を有する方

●募集日程・試験日

・推薦選考

願書受付/平成22年10月4日(月)～14日(木)、選考日/平成22年11月10日(水)

・一般募集試験

願書受付/平成22年12月9日(木)～16日(木)、試験日/平成23年1月19日(水)

・二次募集試験(合格者が定員に満たない場合)

願書受付/平成23年2月1日(火)～8日(火)、試験日/平成23年2月25日(金)

●願書請求・問い合わせ先

青森県営農大教務研修課

TEL 0176(62)3111



鶴田町出身卒業生からの一言

浅利寿仁さん(平成8年度卒業、野木地区で農業を営む) 営農大学の2年が、今の経営に大変役立っています。

志が同じたくさんの仲間と出会えたのも最高でした。

## お知らせ

### 爆音機の使用について

近年、町民や近隣市町村の住民から「爆音機がうるさくて寝られない」との苦情や「農作物のイメーダウンになるのではないか」という声が聞かれます。設置している農家にとっては、大事な農作物を鳥害から守るために使用していることと思いますが、設置場所の近くに暮らす方々の生活環境を考え、次のことに留意してご使用ください。

### 爆音機使用の留意点

- ①安眠を妨害しないよう夜間および早朝の使用を控える
- ②民家や道路付近での使用を控える
- ③近隣の住民に不快感を与えない程度に音量を調節する
- ④爆音機の間隔を長めに調節する

### 稲わらは焼かずに有効利用を!

今年も秋の収穫の時期となりましたが、この時期になると心配されるのがわら焼きによる煙です。わら焼きの煙は、目や喉が痛くなるなど、近隣住民に健康被害を与えるほか、交通障害を引き起こす要因となるなど、大きな問題となっています。

昨年は秋の長雨の影響で、前年に比べては減りましたが、その分春のわら焼きが増えており、依然として行われています。

今年12月には、東北新幹線が全線開業し、これまで以上に観光客が訪れることが考えられます。その時わら焼きが行われていると、青森県全体のイメーダウンに繋がりがかねません。

今年6月の県議会で「青森県稲わらの有効利用の促進及び焼却防止に関する条例」が可決され、「農業者は、稲わらの有効利用に努めなければならない。」「農業者は、稲わらの有効利用の促進を妨げる焼却等の処分を行わないよう努めなければならない」と定められました。

要するに、稲作農家は稲わらを燃やさず、すき込んだり、収集したりするなどして、資源として利用しなければならぬ決まりができたということです。

町では、この条例の制定を受け、稲わらふりーでんや稲わらフリーマーケット等、わら焼きの防止と

稲わらの有効利用に向けた取組を一層進めて参りますので、皆様のご協力をお願いいたします。

稲わらの有効利用等についてご不明な点などがございましたら、お気軽にお問い合わせください。

●問い合わせ先

産業観光課 農業振興班

(内線202)

### 平成22年10月から米トレイサビリティがスタート

コメの産地情報を正しく伝達することに、国民の健康の保護、消費者利益の増進、農業や関連産業の発展を目的に米トレイサビリティがスタートします。

生産から消費にいたる流通経路全体のトレーサビリティの確保のため、米穀事業者は、取引の記録(伝票等)を保存しなければなりません。

●問い合わせ先

東北農政局青森農政事務所

地域第三課



△今年県民局が配布している稲わら有効活用のチラシ

### 【広報つるた有料広告欄】

— 地域と共に歩む —  
りんごの仕入れと販売の情報は  
**(株)津軽りんご市場**  
青森県産地長 大中 志 青森県産地長 石戸 昌 青森県産地長 遠藤 昭光  
〒036-3684 青森県北津軽郡野辺町大字三千石字二番21-3  
TEL 0172(72)1211 FAX 0172(72)1229

### ■問い合わせ先 総務課 まちづくり班 (内線263)

## 宅地分譲

直営につき仲介手数料はありません

<b>五所川原市稲実</b> (ローソン 稲実店から150m ELMの街寄り)	<b>鶴田町早瀬</b> (はやせ保育園付近)
土地価格: 3.3㎡(坪当たり) 45,000円～ 55,000円	土地価格: 3.3㎡(坪当たり) 全区画 45,000円

残り3区画です。お早めにお電話ください。お好きな土地をお安く購入できるチャンスです。

**0173-35-2341**  
〒037-0014 五所川原市大字稲実米崎22-18 (有)全日開発